

平成25年度第1回放送番組審議会 議事録

- 開催日時 平成25年9月27日(金) 14時から15時10分
- 開催場所 三次商工会議所 2階会議室
- 出席者委員 元泉園子(会長)・添田龍彦(副会長)・元廣修・岩本智建・宗清弘樹
湯藤浩康・田村眞司・重信富子・前田茂・岩崎積
- 欠席者委員 岡崎羊子
- 説明員 (株)三次ケーブルビジョン
田坂代表取締役社長・新宅常務取締役・山光部長・野田制作課長
幸住管理課長補佐・坪井管理課長補佐・津田制作課長補佐・西村管理課員
- 1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言。農業関係団体及び住民自治組織団体代表委員の交代に伴う新委員2名(岩本智建、田村眞司)に対して、代表取締役社長から委嘱状を交付、続いて代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。
- 2 会長挨拶 元泉会長が挨拶を行い、放送番組審議会は、視聴者の皆さんが毎日の放送を楽しむにしよう番組作りをするためにあると思っている。委員の皆さんには忌憚のない意見をいただきたいと述べた。
- 3 審 議 審議に先立ち、制作課長が8月に放送した「平和特集企画番組」について企画意図並びに放送内容を説明し、5日間の内容を15分にまとめたDVDを上映する。
- 会 長 DVDを参考に、番組内容について忌憚のない意見をお願いします。
- 委 員 番組中に『平和とは何か』という問いがあったが、将来を考えられる、安心できる今がある、だから今を大切に、ということを改めて考えさせてくれるいい内容だった。
- 委 員 今まで平和の取組といえば、行政の取り組みが広報されることが多かったが、市民の皆さんの活動を広く取り上げて番組を作られていたことが大変意義があると思う。こういう番組を、他の地域の人にも見てもらいたいと思うような内容だった。機会があれば、他のケーブルテレビ局で流したり、あるいは番組コ

ンテストに出品したりして、全国的に紹介すればよいと思う。

委員 今は、平和学習などで実体験を話してもらえる人が少なくなっているので、語り継ぐ人たちの記録を残して、将来の子供たちに戦争の怖さや恐ろしさを伝えることができればよいと思う。

委員 平和は当たり前のように感じているので、8月のこの時期に、平和特集の番組などを見て、改めて戦争の悲惨さや原爆の怖さを再認識する。日が経つとその思いは薄れていくので、このような番組を無くしてはいけないと思う。よく構成された内容だった。語り継ぐ人が少なくなっていく中で、ストレートに戦争体験を伝える部分をどのような番組に作っていくか今後しっかり考えてほしい。

委員 民放にも引けを取らないくらいの番組内容だったと思う。戦争体験者の話を我々が後世に引き継いでいく役割を持っている。三次には、三良坂に平和公園があることも広く伝えていくべきだと思う。

委員 平和特集番組は、放送時に見ていなかったもので、本日DVDで見た。各地域で行われた平和への取り組みのなかで、平和への思いはよくわかった。平和についての取り組みは、後世に残していくべきだし、続けていかななくてはならない。

委員 市内各地での、市民中心の地道な平和への取り組みが紹介されていて、よかったと思う。子ども達を中心とした次世代に平和を繋いでいくために、各学校で平和学習がされているが、県が違くとされていないところもあると聞いている。最後に「あなたにとって平和とは？」というインタビューがあったが、戦争とは直接結びつかない、自分の生活を中心とした平和を実感している内容だった。制作意図と少し食い違っている気がした。

委員 この時期（8月）になったら、戦争・平和の話題が取り上げられていろいろな番組が放送されている。啓蒙するような番組は良いと思う。世界で今も紛争が起きているが、個々の判断はその地域の歴史や文化、宗教の問題もあり、難しいものがある。

委員 地域の身近な人や話題が放送されていて、市内や近辺の人が視聴するにはインパクトが強くよかった。ただ、市外の人に対してはどうか。印象は薄く感じると思う。地域住民には非常によい番組になっていた。

- 会 長 委員の皆さんからいろいろな意見をいただいた。概ねすばらしい内容だったという感想が大半だった。その中で、語り継ぐ人たちをもう少し掘り下げた方がよいのではという意見や、個人レベルで戦争と平和についての意見があったらよかったという意見もあった。三次市内だけでなく、広島や県外にも向けて広く紹介したい思いもあるが、身近な人や話題がよその地域の人にどう思うかで見てもらえるかを検討する必要もある。ほかにご意見はないでしょうか。
- 委 員 広島は被爆地であり、戦争被害者の立場であるが、対アジアで考えれば日本は戦争加害者の立場でもある。双方の立場から取り上げる問題であると思う。
- 委 員 最近はずしも8月6日に登校し、平和教育をするわけではない。平和教育の時期や内容は、それぞれの学校の判断に任されている。また、市民の皆さんには様々な意見があるので、行政の平和への取り組みは、大筋の市民の思いにそった動きになる。それぞれの意見を紹介することはできるが、三次ケーブルビジョンとしての見解を出すことは難しいのではないかと。
- 委 員 こういう番組を作る上で「戦争は絶対反対」というテーマでいくのか、「こういう平和な時代だからこんな幸せな生活が送れるよ」というソフトなスタンスでいくのかによって番組が全く違うものになる。どちらでいくにしても、それぞれ難しい問題があると思うので、議論を続けながら方向性を探ってほしい。
- 委 員 今、戦争を知らない世代だけで番組を作っていると思う。戦争は知らないが、戦争の本質は伝えなくてはいけないし、かつて戦争をして、負けたこと。原爆を受けたという現実には知らなくてはいけない。そのうえで、もう戦争をしてはいけないという思いで番組作りをしてほしい。
- 会 長 今回のテーマは大変大きくて、平和を語ろうとすると戦争を抜きにしては語れないと思う。三次ケーブルビジョンの番組作りの中で、本日出された意見を活かしてほしい。今年だけでなく、継続して番組作りの中心として考えてもらいたい。本日、このようにたくさんのご意見をいただけて大変意義深い審議会になったことを感謝申しあげたい。これで放送番組審議会を終了する。
- 4 閉 会 事務局が本日のニュース番組「情報ストリート、あっちこっち三次」で、この審議会の模様を放送し、議事録をHPに掲載することを伝え、閉会した。